

令和3年度 中部地方整備局ダム事業費等監理委員会及び部会

議事要旨

日 付：令和4年1月18日（火） 13：30～17：15

場 所：AP名古屋8階 B+C ルーム

出席者：松尾委員長、小川委員、高木委員、豊田委員、松本委員
各部会構成員

- 次 第：
1. 開会
 2. 挨拶
 3. 議事
 - 1) ダム事業費等監理委員会
 - (1) 委員会規則・部会運営要領の改正について
 - 2) ダム事業費等監理部会
 - (1) 設楽ダム建設事業部会
 - (2) 新丸山ダム建設事業部会
 - (3) 天竜川ダム再編事業部会
 - (4) 三峰川総合開発事業部会
 4. 議事要旨の確認

1) ダム事業費等監理委員会

いただいた意見：

- 委員会規則・部会運営要領（案）の改正について了承。

2) ダム事業費等監理部会

いただいた意見：

【全事業共通】

- 社会的要因の変化が生じる中、引き続き適正に事業監理を行うとともに、事業費増減につながる場合には、その要因について、より分かりやすく説明されたい。
- 事業の進捗状況について、予算執行に加え、計画に対する進捗状況が分かるような説明としていただきたい。
- DXの活用推進が、コスト縮減ともつながるのかを説明されたい。

【設楽ダム建設事業部会】

- 社会情勢に変化が生じていること、自然を相手にしている事業であるため現場条件に変化が生じることはやむを得ないと考えるが、事業費や工期に加えて効果を早期に発現させる観点も含めて精査を実施されたい。

【新丸山ダム建設事業部会】

- 既設丸山ダムからの放流の影響を受けることから、現場の条件が厳しく難易度の高い工事である。安全かつ確実な施工が可能となるよう事業費も含めて引き続き検討されたい。

【天竜川ダム再編事業部会】

- 令和2年度に事業期間のみ延伸したのであれば、総事業費の見通しの見解について早く示されたい。

【三峰川総合開発事業部会】

- 試験運用については、引き続き、ランニングコストの縮減についても十分留意して実施されたい。

主な質疑

全事業共通

- コスト縮減について、具体の縮減額を記載されたい。
⇒現在実施中かつ未精算の工事におけるコスト縮減の取り組みについて説明しているため、具体的な金額は確定しておらず記載が難しい。全体額に対する縮減割合を示すなど説明方法を検討する。
- 予算の項目別の純増については、そのまま事業費の増額につながるのか。
⇒純増項目に対しては、コスト縮減の工夫等も行い、増額につながらないよう適切な事業監理に努めていく。
- 「事業概要 事業の進捗状況」に記載の令和2年度、令和3年度予算額と、「令和2年度予算 実施内容」、「令和3年度予算 実施内容」に記載の予算額が合わないのはなぜか。違いが分かるよう注釈をつける等工夫してほしい。
⇒「令和2年度予算 実施内容」、「令和3年度予算 実施内容」に記載の予算額は諸費を含まない予算額で記載しており、注釈を付けるなど次回より対応する。

設楽ダム建設事業部会

- 今後行う事業進捗の見込みについての精査は、事業費、工期に影響を及ぼすものか。
⇒現時点では影響が不確定なため、精査が済み次第、速やかに説明させていただく。
- 付替道路の整備や生活再建について、地元の声に耳を傾けるとともに、県事業と連携の上、進められたい。
- 設楽町が目指すダムを活かした地域振興を県がサポートするため、国も協力されたい。
- 令和2年度予算で実施を予定した付替県道小松田口線について現地着手の先送り減とあるが、実施はいつごろを予定しているのか。
⇒令和3年度に実施している。
- 新型コロナウイルスは、事業進捗に影響しているのか。
⇒事業進捗に影響は生じていない。
- 詳細な地質調査結果を踏まえ、本体掘削量を増加させる必要が生じたとあるが、およその

掘削量はどの程度か。

⇒これから精査を行っていくところであり、精査が済み次第、速やかに説明させていただく。

○今回の精査によって環境アセスメントを改めて実施する必要があるのか。

⇒詳細な地質調査結果を踏まえた掘削断面の見直しにより本体掘削量を増加させる必要が生じたが、貯水位を変更するものではなく湛水範囲に変更が生じる見込みがないことから現時点では改めて環境アセスメントを実施する要件には該当しないのではと考えている。

○令和2年度と令和3年度に補正予算が付いているが、これは総事業費に対して前倒し増なのか純増なのか。

⇒補正予算は総事業費の内数で次年度に予定していた工事等を前倒しで実施している。

新丸山ダム建設事業部会

○転流工復旧作業に多額の費用がかかっている場合、工期に影響する可能性もあるため、4億5,000万の内訳と転流工の進捗と費用の執行状況との対応関係を知りたい。

⇒令和2年度の復旧作業に要した費用は流木処理など約1,300万円である。転流工の工程は被災の復旧を考慮して工程を見直し、令和5年度に完成する予定である。

○令和3年度予算測量設計費のダム本体関係が令和2年度予算に比べて大幅に減っている。

ダム本体工事を実施していく中で金額の減り方は不自然ではないのか。

⇒令和2年度はダム本体工事の本格化に向け、ダム本体工事に係る設計を集中的に実施したところであり、そのため令和3年度は予算が大幅に減っている。

○異常気象等が増えてきている中で、建設段階で被災するとコスト増につながるが、国として予備費、保険等といったものはあるのか。

⇒現在、想定外の被災に対する方針は持ちあわせていないが、特に本体工事においては超過洪水等も視野に入れ、引き続き施工方法等の検討を行っていく。

○岐阜県で水害が多発しているため、事業の早期完成とコスト縮減を引き続きお願いしたい。

天竜川ダム再編事業部会

○置土実験・置土は、どのように進めてきたのか。

⇒平成19年度から令和元年度までの置土実験により、下流に異常な堆積がないことを確認した。令和2年度からは、堆砂対策施設の設計に資する置土として実施している。

○補正予算が計上されているが、それにより工期短縮ができるのではないのか

⇒現在、設計段階にあり、今回の補正予算による設計の実施が令和13年度までという事業期間の短縮に直ちにつながるものではないが、引き続き、早期に効果が発現できるように努めていく。

○管理所候補位置を左岸から右岸に変更した理由はなにか。

⇒整備に必要な費用を比較し、左岸よりも右岸の方が経済的となる等、総合的に判断し右岸とした。

○秋葉ダムスルーシングを実施するための工事があるのか。

⇒スルーシングとは、秋葉ダム水位を洪水時に下げることにより、秋葉ダム堆積土砂を洪

水の力で下流に流す操作でありスルーリング自体のために必要となる工事はない。ただし、水位を下げることで周囲の構造物に影響する場合には、対策工事の実施が必要となる。

○環境検討委員会は今後 10 年継続するのか。

⇒本委員会は事業が環境に与える影響の予測評価、環境保全措置等の検討等について助言を得るため設立した。環境影響についてご審議をいただき、早期にとりまとめを行いたいと考えている。

○洪水被害の軽減や海岸侵食の抑制が期待できることから静岡県にとって重要な事業であるため、引き続き予算の確保及びコスト縮減に努めていただき、事業の推進をお願いしたい。

三峰川総合開発事業部会

○試験運用の期間が 3 年間必要である理由は何か。また、試験運用期間で得られた知見やデータは実運用に向けて活用されるとともに、全国に先駆けて実施された事例として、今後の他事業においても活用されることを念頭にとりまとめ等をされたい。

⇒試験運用の期間については、運用時の下流環境をモニタリングし、効率的な運用方法を決定するために、3 年の期間が必要と考えている。なお、当該試験運用で得られた知見やデータの活用、とりまとめについては、ご意見いただいたとおりに対応していきたい。

○ダム湖浚渫送泥にかかる費用が測量設計費である理由は何か。また、当該費用が本格運用後のランニングコストの一部になると思うが、当該費用の縮減についてはどのように考えているか。

⇒ダム湖浚渫送泥は、試験運用のための土砂をストックヤードに貯めておく作業であるため測量設計費で実施している。また、ダム湖浚渫送泥にかかる費用については、試験運用においてコスト縮減となる方策を検討していきたい。

○本事業は施設が概ね完成していることから、コスト縮減が図られる事例は限定的にならざるを得ないが、引き続きコスト縮減の意識は常に持ちながら事業を進められたい。

⇒ご意見いただいたとおりに対応していきたい。

以 上